

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年6月7日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.121]

## JR総連は政府にとって好ましくない存在だと自認？！

JR総連・東労組は革マル派が浸透しているという政府の公式見解を一貫して否定しているが、民主党政権が示した答弁書の内容も同様に否定するのだろうか。前号に続きJR総連前委員長小田裕司氏の証言内容を紹介する（「週刊現代裁判」2009年2月17日）。

(被告側代理人)(注:日本政府の公式見解について)それが事実としては違うということなんです。 (小田)ええ、何回も警察庁にも、あるいは警視庁にも、関係するところに、なぜJR総連に革マル派が浸透してるんだということを是非具体的に示してもらいたいということを、いろんな機会を通じて行ってきましたけれども、ただの一度も返ってきませんでした。 (代理人)根拠を示さないから間違いだということですか。 (小田)そうです。 (代理人)なぜそのような間違っただけの理解を政府がしているのか、その理由については思い当たるところはありますか。 (小田)それはJR総連が政府にとって、その存在自体を好ましくないからではないかというふうに思っているんですが。

### 革マル派浸透を否定するならJR総連・東労組は自ら説明責任を果たせ！

政府見解は「根拠を示さないから間違いだ」「革マル派とは関係ない」というのなら、根拠を示せと言う前に、本情報でこれまで指摘、検証してきた多数の疑惑に対し、社会が納得できるよう自らの潔白をつまびらかに説明すべきである。JR総連内の「JR労研」等の秘密組織、JR総連内での革マル派へのカンパ、秘密黨員名、JR総連・東労組関係者多数が被害を受けている内ゲバ事件、革マル派も本人も内実を暴露している坂入氏拉致事件や九州労大量脱退事件、JR総連・東労組と革マル派事件を担当する同一弁護士が存在、JR総連と革マル派との「対立」の結末、自ら革マル派と指摘した人物が「国際労働総研」の主任研究員となっている事実、革マル派とJR総連との関係を述べた「解放」の数々の記述等々、枚挙に暇のない疑惑の数々について、社会常識でもわかるように説明いただきたい。説明責任はJR総連・東労組の側にあるはずだ。ここまでの疑惑が指摘され、日本政府が公式に認定しながら、なお「革マル派とは関係ない」という説明を誰が信用するのだろうか。

民主党政権が「JR総連及びJR東労組内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」ことを認めた以上、民主党がJR総連・東労組の幹部役員で組織内候補の田城郁氏を参議院選挙の立候補予定者として公認したことについて、マスコミ等が田城氏と革マル派との関係や革マル派の影響などを問題視するのは当然だろう。

小田氏は、政府がこのような見解を示すのは「JR総連が政府にとって存在自体が好ましくないからではないか」と証言した。JR総連は、民主党政権からも好ましくない存在だとみられていると自認しているのか。政府答弁書は「革マル派は、将来の共産主義革命に備えるため、その組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っており」「今後も、革マル派は、組織拡大に重点を置き、党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っていくものと見られる」と述べた。この内容からみれば「革マル派組織が将来的に国政の場への浸透を企図する動きや懸念」（質問主意書6項）の不安を拭い去ることはできないだろう。